

きいて・めもして・こたえよう

とうろん きょうしつ き さむ たいさく
討論・教室の かん気と 寒さ対策

なまえ
名前

きこめあて ふたり たいりつてん はな あ み つかった お あ わ
聞くめあて 二人の「対立点」と、話し合いで見つけた「折り合い」を、分
けてメモしましょう。

ことば たいりつてん ふたり こんきょ お あ
おとさない言葉：対立点・二人の根拠・折り合い

ほうそう
放送が終わったら、開いて問題に答えましょう。

(1) きのした
木下さんが「まどを開けるべきだ」と考える理由は何か。

(2) はやし
林さんが「まどを開けすぎること」を心配する理由はどれですか。○をつけましょう。
ア 教室が冷えて、かえってかぜをひく
イ 空気がよれて病気が広がる
ウ まどがこわれる

(3) ふたり
二人の「対立点」は、何と何のどちらをとるか、ということでしたか。

(4) かい
司会が出した「折り合い」の提案はどれですか。○をつけましょう。

ア 休み時間ごとに短く一気にかん気し、授業中は閉めてあたたかく

イ 一日中まどを開けておく

ウ 一日中まどを閉めておく

(5) あなたなら、かん気とあたたかさの両方を生かすために、どんな工夫を考えますか。理由とともに書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声を流す）。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

冬の、教室で、「かん気を、しっかり、するべきか、それとも、寒さを、ふせぐことを、優先するか」を、テーマに、討論します。二人の、対立する、意見と、折り合いの、つけ方を、聞きましょう。

かん気を、大切にする、木下さんです。「わたしは、まどを、開けて、空気を、入れかえるべきだと、考えます。教室に、人が、多いと、空気が、よごれ、かぜなどの、病気が、広がりやすく、なります。健康の、ためには、少し、寒くても、かん気が、必要です。」

寒さ対策を、大切にする、林さんです。「わたしは、反対です。まどを、開けすぎると、教室が、冷え、体が、冷えて、かえって、かぜを、ひきます。手が、かじかんで、字も、書きにくく、なります。学習に、集中する、ためにも、あたたかさは、大切です。」

二人の、対立点は、「かん気か、あたたかさか」です。そこで、司会が、提案しました。「両方を、生かせないでしょうか。休み時間ごとに、短い、時間だけ、まどを、大きく、開けて、一気に、かん気し、授業中は、閉めて、あたたかく、する。」二人も、これに、なっとくしました。

意見が、対立しても、話し合えば、両方を、生かす、折り合いが、見つかる。それが、討論の、よいところです。あなたなら、どんな、方法を、考えますか。

メモのれい

討論・教室のかん気と寒さ対策（対立点と折り合い）

木下さん＝かん気派：人が多いと空気がよごれ病気が広がる→寒くてもかん気が必要

林さん＝あたたかさ派：開けすぎると冷えてかぜ・字が書きにくい→あたたかさが大切

折り合い：休み時間に短く一気にかん気→授業中は閉めてあたたかく（両方を生かす）

こたえと かいせつ

（1）人が多いと空気がよごれ、かぜなどの病気が広がりやすいから（健康のため）

木下さんは健康を理由に、寒くてもかん気が必要だと主張しました。

（2）ア（教室が冷えて、かえってかぜをひく）

イは木下さんの理由です。林さんは「冷えてかぜをひく」「字が書きにくい」を挙げました。

（3）かん気（空気の入れかえ）と、あたたかさ

「かん気か、あたたかさか」が二人の対立点でした。

（4）ア（休み時間ごとに短く一気にかん気し、授業中は閉めてあたたかく）

司会の提案に二人ともなっとくしました。両方を生かす折り合いです。

（5）（例）大きな休み時間に、みんなで一気にまどを開ける。短い時間なら寒くならず、空気も入れかわると思うからだ。

工夫と理由が書けていれば正解です。放送の折り合いを生かしていればさらによいです。